

「自分たちにできることで一歩ずつ前へ」 ～共生社会を目指す「清瀬どんぐりの家」～



病院からの退院、そして、地域での受け皿づくりに向けた取り組みを行う「清瀬どんぐりの家」(写真奥)と「ベーカリーショップどんぐり野塩店」

市民 パルタージ

このコーナーは、市内在住の市民編集委員が清瀬に関連する施設や事業者を巡って、清瀬のまちの特徴を紹介します。



市民編集委員

山本美香さん
(竹丘在住・主婦)

30周年を迎えた

「どんぐり」グループ

～原点は「家族会」の切なる思い～

さまざまな地域活動を展開し、昨年で創立30周年を迎えた「精神障害者自立支援センター・どんぐりグループ」。

街の所々で「ベーカリーショップどんぐり」や「リサイクルショップどんぐり」といったお店を見かけたことはありませんか。

これらは、障害のある方々が自由に、安心して地域生活を送り、就労・生活・相談についてもサポートを受けられるように、2つの家族会・蒼空会・所沢蒼空会と2つの社会福祉法人(椎の木会・所沢しいのき会)を母体として活動する、地域生活支援グループ事業の一環です。

今回は、このグループ事業の一つとして活動する「清瀬どんぐりの家」(野塩四丁目)を紹介しします。



今回お話しいただいた熊谷さん

「こころの病と

福祉のあゆみ

精神障害者に関する法律は、昭和25年に制定された「精神衛生法」に始まります。

それまでの法律は、精神障害者を社会から隔離することが目的で

あるかのような内容でした。その後、昭和62年に「精神保健法」に名称が変更され、当事者への人権の配慮や、本人の同意による入院、措置入院、医療保護入院などの入院の形態が明確になりました。また、同時に当事者の社会復帰の促進が規定されました。

更に平成7年には、「精神保健及び精神障害者福祉に関する法律」(精神福祉保健法)に改定され、私たち国民に対しても理解と協力を求める規定が盛り込まれました。(参考資料・福祉行政法令研究会著「障害者自立支援法がよくわかる本」)

平成25年版「障害者白書」(内閣府調べ)によると、何らかの精神疾患で医療機関にかかる患者数は320万人に上ると言われています。疾病別内訳を見ると「気分障害(躁うつ病を含む)」が92・9万人、「統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害」が53・9万人、「神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害」が56・5万人、「アルツハイマー病」が32・5万人、「てんかん」が20・9万人となっています。

「こころの病は今

今回お話を伺った施設長の熊谷

スミエさんは、「こころの病は、健康な人でも過度なストレスや環境の変化によって発病するケースがありますので、特別な病気ではないことを知ってほしいですね」と話されます。

「こころの病」は、その原因によって、外因性・心因性・内因性の三つ(または、いずれかが合わさる)に分類されるそうです。

「外因性」とは、「事故で頭を打

つ」「脳血管障害で倒れた」など、脳の損傷が原因となる場合です。事故などによる外傷では頭痛やけだるさの症状が、脳血管障害では認知症や記憶障害などの症状が顕著にみられます。

「心因性」は、大きな心理的ショックから引き起こる症状です。身近な人の死や環境の変化などで発症する「神経症性障害」「ストレス関連障害」などが挙げられます。主症状は「不安」です。いくつかのタイプがあり、漠然とした不安がつきまとう「不安神経症」、高所・閉所・不潔など対象がはっきりしている「恐怖症」、心理的不安が体や知覚をまひさせる「ヒステリー」などがあるそうです。

そして、「内因性」で代表的な障害が「統合失調症」です。幻覚や妄想に悩まされる状態(陽性症状)と意欲低下やひきこもる状態(陰性症状)があり、その原因は解明されていませんが、現時点で脳にいくつかの軽度の変化があることが明らかになっています。

「医療的なケアとともに本人を理解する身近な存在、心理・日常生活で支える援助者の存在がとても重要です。適切な治療(薬物療法・精神療法・リハビリテーション)が継続されていれば、症状は抑え



職人さんの協力の下、生地から手作りされる「パン工房」

られます」と熊谷さんは話されました。

地域との交流

笑顔で言葉を交わす 事業を展開

「清瀬どんぐりの家」に通所するメンバーは、現在39人。配食やリサイクル事業、内職など、多岐に渡って活動しています。

1階の調理場・工房では、栄養バランスの良いお弁当やパンを手作りし、配達・配送しています。また、2階の軽作業場では、紙袋のヒモ付けやギフト箱作り、古紙回収などの仕事を行っています。併設される「ベーカリーショップどんぐり」などのパンは全て生地で作るとのこと。当初は、技術もなく試行錯誤されたそうですが、現在では設備も整い、専門の職人さんも加わり、デニッシュや天然酵母系など20種類以上のパンの製造・販売や喫茶を営業し、市内の全公立保育園にも納品されているそうです。他には移動販売店・販売車などもあり、地域の方との交流が活発に行われています。

喫茶のサポートに当たる職員の



「清瀬どんぐりの家」で手作りされたお弁当やパン(ベーカリーショップどんぐり野塩店)



「ベーカリーショップどんぐり野塩店」の喫茶コーナー

次のステップ

に向かつて

今後の事業課題として熊谷さんは、高齢者(親なき後の障害者)の居場所づくり、ACT事業(包括型地域生活支援プログラム・多職種チームによる訪問活動を中心とした24時間サービスの実施)の制度化などを挙げています。

「私たちの活動は、まだ途中で。まずは私たちの活動を知っていただき、ご理解いただけると嬉しいですね」と話されました。

取材を終えて

あるテレビ番組で障害のある方が「社会のなかで自分に役割を与えられた時が、何よりの生きがいであり、喜びにつながります」と言っていたのが印象的でした。

このことは、障害のあるなしにかかわらず、全ての人に共通して言えることだと思います。

誰もが自分らしい生き方を実現でき、多様な立場・価値観を容認できる社会こそが、これからの社会のあり方なのかもしれません。

問合せ 清瀬どんぐりの家 ☎ 493・0210